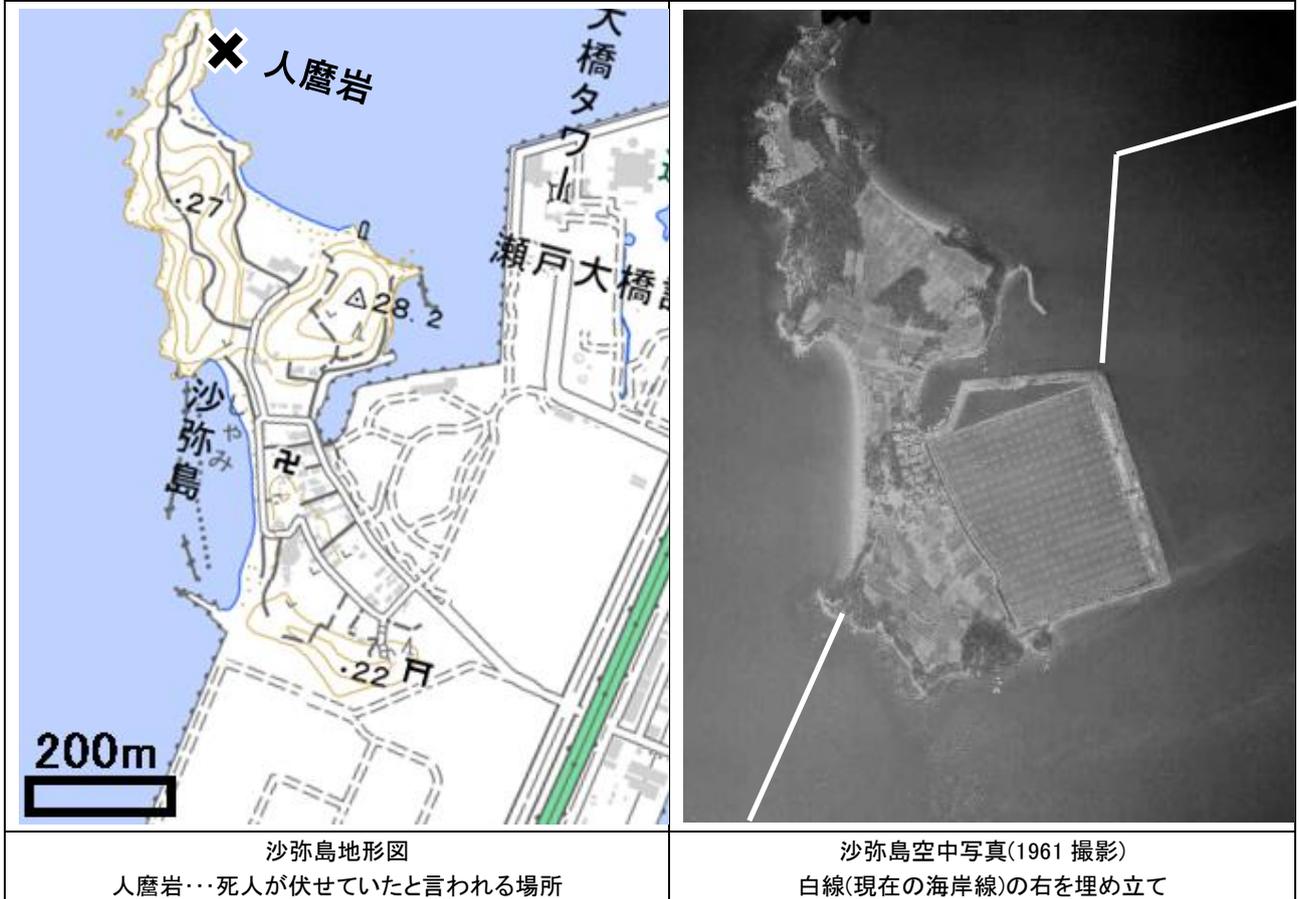


万葉の地学
沙弥島（しゃみじま）

南 寿宏

沙弥島（香川県坂出市）は四国の沖合3kmに浮かぶ小島であったが、1964年に埋め立てにより陸続きになった。埋め立て地には番の州臨海工業団地が造成された。今はすぐ中央に瀬戸大橋が架かっている。下右写真にある島の南東の方形の部分は塩田で、今はスポーツ施設となっている。



沙弥島地形図
人麿岩…死人が伏せていたと言われる場所

沙弥島空中写真(1961撮影)
白線(現在の海岸線)の右を埋め立て

今回は、この沙弥島が舞台である。その時詠んだ長歌および短歌2首の題詞が恐ろしい。

題詞 讃岐の狭岑(さみね)の島にして石中の死人を見て柿本朝臣人麿が作る歌一首并(あは)せて短歌

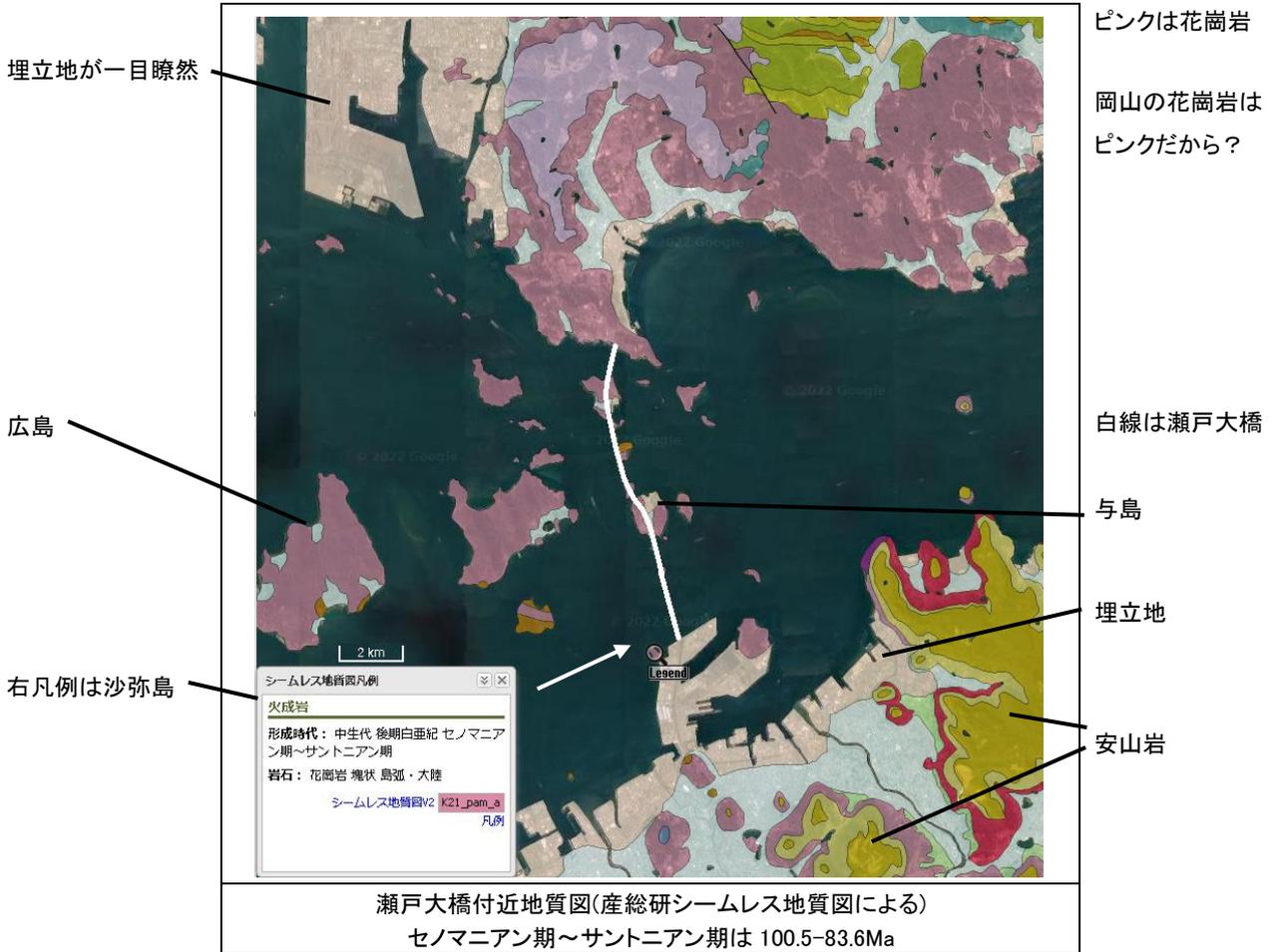
狭岑の島が現在の沙弥(しゃみ)島である。

人麿は讃岐方面に出張し、その帰路、寄港した那珂の港から難波港へ向けて船出。強い西風で海が荒れてきたので、沙弥島の東に回り込み、海岸で風避けをしたと思われる。那珂の港とは、丸亀市西部を流れる金倉川の河口付近で、現在の地名は丸亀市中津。『津』は港を表すので『中津』は『なかのみなと』となる。

(前略)	鯨魚取	海乎恐	行船乃	梶引折而	彼此之	嶋者雖多
	鯨魚取り	海を畏み	行く船の	梶引き折りて	をちこちの	島は多けど
	いさなとり	うみをかしこみ	ゆくふねの	かぢひきをりて	をちこちの	しまはおほけど
	(枕詞)	海が恐ろしくて	行く船の	梶が折れるほどで	あちこちと	島は多いが
名細之	狭岑之嶋乃	荒磯面尒	廬作而見者	浪音乃	茂濱邊乎	敷妙乃
名くはし	狭岑の島の	荒磯面に	庵りて見れば	波の音の	繁き浜辺を	敷栲の
なくはし	さみねのしまの	ありそにも	いほりてみれば	なみのとの	しげきはまへを	しきたへの
中でも	沙弥島の	荒い磯に	庵を作つて見ると	波の音の	とどろく浜辺を	(枕詞)
枕尒為而	荒床	自伏君之	家知者	往面毛将告	妻知者	
枕になして	荒床に	ころ伏す君が	家知らば	行きても告げむ	妻知らば	
まくらになして	あらとこに	ころふすきみが	いへしらば	ゆきてもつげむ	つましらば	
枕にして	でこぼこの床に	伏している君の	家を知っていたなら	行って告げよう	妻が知ったならば	

来毛問益乎	玉梓之	道太尔不知	鬱悒久	待加戀良武	愛伎妻等者
来も問はましを	玉梓の	道だに知らず	おほほしく	待ちか恋ふらむ	はしき妻らは
きもとはましを	たまほこの	みちだにしらず	おほほしく	まちかこふらむ	はしきつまらは
来て声をかけよう	(枕詞)	道すら知らず	心配して	待ち焦がれていよう	いとしい妻は
鯨魚取り・敷栲の・玉梓の はそれぞれ、海・枕・道の枕詞					万葉集 卷二 220 柿本人麿

沙弥島には、縄文・弥生・古墳時代の遺跡が多数存在する。遺跡では、石室は花崗岩、蓋石は板状安山岩が使われている。それらの石はどこのものなのだろうか。



最近、産総研が公開した地質サイトに、シームレス地質図がある。上図は瀬戸大橋周辺の地質図である。沙弥島はピンクに塗られている（白矢印）。この地質図ではマウスを当てると、凡例が表示される。沙弥島は、『中生代後期白亜紀セノマニアン期~サントニアン期の塊状花崗岩』であることが分かる。したがって、石室の花崗岩は、古墳の周囲のものであろう。

では、蓋石の安山岩は？地質図を四国側にスライドさせると、多色の地質体が見える。東の五色台では、5色の地質体が観察できる。さすがは五色台(warawara)。高所から記述する。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| ① 新生代新第三紀中新世後期ランギアン期~トートニアン期 | 安山岩・玄武岩質安山岩 |
| ② 新生代新第三紀中新世後期ランギアン期~トートニアン期 | デイサイト・流紋岩 |
| ③ 中生代後期白亜紀セノマニアン期~サントニアン期 | 花崗閃緑岩・トーナル岩 |

海岸に近づくと、

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ④ 新生代第四紀後期更新世中期~後期更新世後期 | 段丘堆積物 |
| ⑤ 新生代第四紀完新世 | 谷底平野・山間盆地・河川・
海岸平野堆積物 |

が分布する。その北は埋立地である。

この地質図から分かるように、安山岩は、五色台まで行かなくても、坂出市・宇多津町の各所に分布する。飯野山（讃岐富士）もその一例である。

どこの安山岩であるにせよ、島から3 km 舟をこぎ、上陸して山登り、石材を板状に割り、海岸まで担ぎ、舟に乗せて3 km 戻るのだから、かなりの重労働であったと思われる。

ここに述べた花崗岩は、領家花崗岩にあたる。

領家花崗岩(リョウケカコウガン) Ryoke granite

領家変成帯内に分布する花崗岩質岩類の総称。ふつうは領家変成帯の北縁の広島花崗岩や並木花崗岩を含まない。広域変成作用とほぼ同時あるいはやや遅れて貫入した古期領家花崗岩と変成岩類に複変成作用を与える新期領家花崗岩に区分。古期領家花崗岩は石英閃緑岩～花崗閃緑岩～花崗岩と変化に富み、強い片麻状構造をもって変成帯の構造に調和的に貫入。新期領家花崗岩は一般に均質塊状で非調和的に貫入。領家グループ(1972)以後、中部地方の領家花崗岩は濃飛流紋岩の活動を境にして古期・新期に分けられるようになった。花崗岩中の黒雲母の K-Ar 年代は 101～53Ma、Rb-Sr 年代は 112～68Ma。古期・新期・広島花崗岩の間では年代の差がはっきりしない。Rb-Sr 全岩アイソクロン年代は 96～73Ma で、古期花崗岩の CHIME モナズ石年代は 95～90Ma である。

[山田哲雄, 地学団体研究会編 新版地学事典]

瀬戸大橋はいくつかの島に橋脚を立てて瀬戸内海を渡っている。それらの島は、ほとんどがこの領家花崗岩からできている。したがって、橋を渡る列車から島の花崗岩が見える。特に、下り高松・高知方面行列車から与島の石切り場がよく観察できる。与島の花崗岩は角閃石黒雲母花崗岩であり、与島の西 15km の広島に多く分布し、青木石と呼ばれる。下り列車が与島にさしかかると、左車窓にご注目を。その切り口は垂直、下には海水が溜まっている。かなり大きい石材を切り出したのであろう。石は大阪城まで運ばれたか、近くの高松城、丸亀城で使われたか。これらの城に行った際には、そんな目で石垣を見るのもご一興味か。この石切り場、通るたびにもう何十回も見ているが、写真撮影ができていないので、ここにお見せできないのが残念である。もしかして、本会会員の中にどなたか、坂出市・宇多津町近辺に在住の方がおられ、列車で瀬戸大橋を往復し、写真を撮って送ってこないだろうか、と、以下、独り言。

い てくれたらいいなどはおもいま す
し かし、いなかったらしかたない が
い らっしゃったらしあわせなんだ わ
ま あ、むりはなさらなくていいか ら
み んなみたいだろうからごくろう さま

与島でいろいろググっていると、『さざれ』という商品を見つけた。それが右図である。ご覧のように、これは与島産の花崗岩を磨いたもの。右図の商品は 100 g で税込み 880 円+送料 250 円で購入することができる。

この他にも、『さざれ』を球状に磨き、紐で結んだブレスレットも検索された。画像は省略するので各自で検索を願うが、見た目は数珠。

次の総会・巡検では、光り物の大好きな K 田さんが、じゃらじゃらさせているだろう。

